

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070501166		
法人名	社会福祉法人 敬友会		
事業所名	さくらの里グループホーム		
所在地	群馬県太田市中根町295番地1		
自己評価作成日	令和6年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和6年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの状態を把握し、個別に接し方を考慮しながら、ケアを行うようにしている。個人の気持ちを尊重し、落ち着いた気持ちで、安心して生活が送れるように心配りしている。静かな田園地帯に隣接しているため、ゆったりとどかに毎日を送っていただくことができる。職員一同が、気持ちを穏やかに保ち、利用者がのびのびとした気持ちで過ごせますように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所などの一画に建てられている。食事は、栄養士による献立(3時のおやつ含む)とカロリーが算出されており、調理した料理は、事業所の調理室でおいしそうに盛り付けるようにしている。また、一日の飲料水では、健康に配慮して利用者の好きな飲物を1日3回までリクエストできるようにしている。その他の飲物は、番茶や白湯、状況にあわせて乳酸飲料も提供して、自然排便につなげるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所がめざす地域密着型サービスのあり方を端的に示した独自の理念に基づき、管理者と職員は、実践につなげている。	「一人一人の気持ちを尊重し、住み慣れた地域で安心して過ごせる」を理念とし、ホール、玄関に掲示している。職員の理念に対する理解には相違があるので、理事長も会議に出席し、2~3ヶ月毎に理念とサービスのあり方について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今までは、新型コロナウイルス感染症対策として、地域との関わりや交流を避けていましたが、今後は、世の中の状況を把握しながら、積極的に関わりを持てるようにしていきます。	コロナ禍であるため、外部との接触を極力避けるようにしている。地域の行事等に関する情報は運営する法人が得ているが、今までのように地区の行事、祭りへの参加・ボランティア訪問などを控えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状は、新型コロナウイルス感染症対策のため地域との関わりや交流を避けてきたため地域貢献はできていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年10月以後、実施できていなかったが、令和6年2月に会議を開催できたので、今後は、2カ月に1度、会議を実施し、意見交換やサービス向上に活かしていきたい。	令和6年2月より、対面での会議開催を再開している。その間は、開催中止となっており報告も行われていない。再開となり、利用者状況及び行事、事業報告が行われ、会議開催時間について話し合われている。	会議開催が再開されたが、参加メンバーに報告できるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に、利用者の事情等について、相談や介護保険の申請代行などで伺っている。	空室状況を、毎月、電話で報告している。介護保険に関する手続きは、市担当課へ出向き指導を受けている。市担当者からは、研修会の紹介等の連絡がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を3か月に1度開催し、職員全員がその都度、身体拘束について、正しく理解できるように取り組んでいる。玄関の施錠については、いつでも入れるように自動ドアになっているが、外にでていくときは、安全のため、職員がテンキーを押し、ドアを開けている。	身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月毎に開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のための指針を作り、管理者や職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待のない介護を意識して利用者へ接していくことを常に心がけ、施設内での虐待防止に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やケアマネは研修で学んでいるが、特にスタッフ間では学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所「のケアの取り組み方、医療とのかわり方について説明し、利用者や家族等の不安や疑問点について十分な説明を行っている。解約または改定等の際も、十分な説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関に投書箱を設け、利用者の家族、外部の方々からの意見や要望を伺うことが出来るように設置している。そのほか家族からの意見や要望があるときは、常時、管理者やケアマネ、職員等に電話での相談や直接話していただけるような雰囲気がもてるよう心がけている。	重要事項説明書に相談・苦情窓口として事業所の担当者名、事業所以外の窓口を記載して、その他、いつでも話してほしいと説明している。意見箱の設置や、職員は家族が話しかけ相談できるような雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	決められた職員会議や必要と思われる時に、運営に関する意見や提案を、職員側より聞く機会を設けている。	理事長出席の職員会議を、毎月実施している。処遇に関することや、車いすの購入、カラオケの修理など改善につなげている。職員会議は、職員全員が参加できるよう業務上の都合により2～3回に分けて実施している。	会議開催方法を検討しているが、事前に意見聴取を図るなど、職員全員での意見交換や話し合いの機会となるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が介護福祉士などの資格を得た時には、資格手当を給与につけたりして、モチベーションを高めるように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症対策のため、法人外の研修は、避けていたが、法人内の研修を受ける機会は持つようにしてトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症対策として、交流を控えていたが、今後は、サービスの質を向上させていくために、同業者との交流に取り組めるよう努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	身体の状態や精神的な状況、困っていること、不安なこと等の要望を伺いながら、信頼関係を築くことができるように努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から経緯を良く聞き、困っていることや不安なこと、求めていることを聴く時間を取り、どのような対応やサービスが出来るか話し合い、本人や家族の不安が少しでも減るように、家族との関係作りに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、家族から本人の心身状態や特に困っていることなどを聴き取り、本人や家族が必要としているサービスを支援できるように、家族との関係作りに努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごすことで、悩みや喜び、悲しみを共有するようになり、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の気持ちを考え、利用者の暮らしぶりについてきめ細かくお伝えし、利用者を共に支えていく関係でいることを話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症対策として、関係継続の支援を控えていたが、今後は、本人が大切にしてる馴染みの人や場所との関係が途切れないように、支援していく。	利用者とのコミュニケーションの中で、馴染みの人や場所を掴むようにしている。親戚の家へ畑仕事を手伝いに行ったり、通院支援の途中に、利用者の希望で馴染みのスーパーで買い物をしたり支援につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性が把握できるように、職員は情報を共有し、お互いに和やかな生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方であっても、必要に応じて後のサービスの相談や経過を伺いながら支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で、どのように過ごしてきたかを聞き取り、これまでの生活歴の中から、利用者にとっての望む暮らしが把握できるように努めている。	約半数の利用者は、自分の意向を言葉や態度で表現し職員に伝えられるため、毎朝届く新聞をたのしみにしたり、汚れている所を見つけると掃除をしたり、それぞれの望む暮らしを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人からの話しの中から、どのような暮らし方をしてきたかを知り、また家族や関係者から様々な情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活のリズムをつかみ、心身状態を把握し、日々の暮らしの中で、本人の有する力等の現状を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が満足できるような暮らしを提供できるようにするためには、どのようなことが必要か、どのようなケアが適切かを、本人、家族、職員と話し合い計画を作成できるように努めている。	夜勤者から日勤者に引き継ぎ(申送り)の時間を利用し、介護計画作成担当者は利用者の情報の把握・援助の効果をモニタリングをしている。また、その場にはいない職員へは、「記録ノート」に記載して、情報やモニタリング後の援助を職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個人記録に、食事量、水分量、排泄状況を記入し、個別記録には日中や夜間の暮らしの様子やケア等を記録し、当日の勤務の職員が勤務に入る前に申し送りで状況を確認し、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症対策として、地域資源との共同から離れていたが、今後は地域資源の把握に努め、利用者が安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を優先し、希望に添えるように常に努力をしている。納得が得られたかかりつけ医との連携をはかり、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に、かかりつけ医の希望を本人、家族に確認している。月に2回の事業所のかかりつけ医による往診が受けられる。他科受診時は、管理者が同行して受診が行われ、診療結果については、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、職場内の看護職に、日々の関わりの中で捉えた情報や状態像を報告し、個々の利用者が適切な処置や看護が受けられるように支援している。受診が必要であれば、迅速に対応するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の病院関係者との情報交換や相談に努めている。退院時には、情報提供をもらい、主治医との連携をはかり、退院後のケアに役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時には、すぐに対応してもらえるように、かかりつけ医(協力病院)と連携を図っている。なお施設での看取りを希望している家族とは、かかりつけ医との連携を図りながら、事業所でできることを共有し、できることの中での最大限の支援に職員一同取り組んでいる。	病状の変化に応じ、かかりつけ医から家族、職員へ状態が伝えられている。終末期ケアや看取りについて家族に説明し、家族の希望があれば希望を確認しながら対応している。医師、介護職員、看護職員、家族の意見等を聞きながら、チームでの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の初期対応及び応急手当について、その時実践出来るように、書面での確認や申し送りノートでの共有をしているが、コロナウイルス感染症対策として定期的な訓練は行っていなかったため、今後は実践できるように訓練を行っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練として、年に2回ほど、職員と利用者、地域の地区役員や消防署員との連携を図り行っていたが、新型コロナウイルス感染症対策として、地区役員や消防署員の連携を控えていたが、今後は、地域や消防署員との協力体制を築いていきます。夜勤帯の避難訓練も夜勤者1人対応での訓練として、不定期ではあるがやっている。	年に2回、火災を想定し、法人の3事業所合同の避難訓練をしている。事業所では、1人夜勤の場合を想定した訓練もしている。コロナ禍での避難訓練は、職員のみで実施している。今後、消防署や地域の人々の協力を得た避難訓練を計画・実現に向け検討している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の介護支援の中で、それぞれの利用者に対する適切な対応や言葉かけが出来るように、職員間で話し合いながら、対応している。	以前の立場ある役職にもどり、仕事をしている気持ちとなる利用者や帰宅願望のある利用者に対する対応を職員で話し合い、その人にあった対応に努めて、誇りを損なわないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを汲み取れるよう、普段の表情や話す言葉の中から、望む生活や希望を推測し、可能な限り自己決定できるような支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や体調に配慮しながら、個別ケアを中心とした支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ほとんどの利用者は訪問美容師に個々に合ったヘアースタイルに散髪してもらっていたが、新型コロナウイルス感染症対策として、しばらく訪問を控えていたが、近年は、利用者の希望に添えるよう訪問美容を再開している。髭剃り等は、見守りや支援をその都度行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	歯の良い利用者と柔らかい食材しか食べられない高齢で認知症度の高い利用者とは別れるため、個々の利用者の状態に応じて声掛けを行い、食事が楽しいものになるよう、支援及び介助を行っている。	法人内施設で調理された料理を、事業所の調理室で盛りつけ、配膳している。事前にアレルギー食材の変更やおかゆ・刻み食などの食形態、嗜好への配慮を行い、食事が生活の楽しみであるよう努めている。今後、利用者の嗜好調査を再開する予定がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェックし、一人ひとりの状態を把握しながら支援している。食事は法人内の管理栄養士が作成した献立表により、調理室で作られたメニューを当施設のキッチンで、個々の利用者が食べやすいように手を加えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じて、食後の口腔ケアを促している。自ら行える利用者や介助のもとで行う利用者、または拒否する利用者もいるため、無理をせず、可能な範囲で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表より、時間を見計らってトイレ誘導したり、トイレに行きたいしぐさや表情、言葉などから、トイレの場所を案内し、必要に応じて介助や見守りを行なっている。そのほか一人ひとりの力や排泄のパターンに合わせて自立支援を行っている。	排泄チェック記録や利用者の動作や表情から、声掛けやトイレ誘導を行い、利用者一人ひとりに適した支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や牛乳、ヨーグルト、乳酸菌飲料等を取り入れて摂取している。個々の利用者の便秘の原因を把握し、個々に応じた予防と対応に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	あらかじめ、入浴の予定はあるが、本人の体調や希望に合わせて入浴が出来るように配慮している。	個浴で、週2回を目安に入浴をしている。利用者の好みの湯温に調節し、見守りや介助の必要性に応じて支援している。また、浴室、脱衣室の室温は入浴前から少し高めに設定し、利用者が寒さを感じないように準備している。入浴剤で香りを楽しんだり、コミュニケーションの場所としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息できるように支援している。就寝時間は個々の利用者によって違いがあり、対応の仕方は個々の利用者にあつた対応で、安心して眠れるよう声掛けおよび誘導支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の内容を把握し、薬の変更があつた時は、体調の変化がないか様子観察を行っている。粒上の内服薬が困難な時には、粉末状に変更してもらうなどの対応を行っている。粒のまま服用しなければならない場合や飲み込みづらい利用者は、トロミを使用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや植物への水くれなど、個々の生活歴や職業歴などを勘案して、力を生かした役割や楽しみごと、気分転換等ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウイルス感染症対策として、利用者の外出は控えていたが、今後の状況により、本人や家族の希望に添えるよう支援していく。	コロナ禍では、積極的な外出支援は行われていないが、食堂兼居間に続くテラスでの外気浴、朝は朝日を浴び、夕方は夕日を見ることができる場所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、自宅や親戚、友人への電話を自由に掛けられるように支援している。また、手紙のやり取りも出来るように援助している。家族と本人との希望で携帯電話の所持もしている利用者がいるが、限られた人との通話となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の立地が田園地帯であり、食堂兼居間であるホールからは、野鳥が水田の中に来るのを見たり、電車が通るのを眺めたり、遠くに見える山々を観たりできるので、懐かしいのんびりした生活空間となっている。常時、不快を招かないように、音や光、温度などに気配りをしている。	食堂兼居間では、利用者が休憩したり、洗濯後の乾いた衣類を畳んだりして自由に過ごせるようにしている。また、利用者が小さな植物を鉢植えで育てたり、日めくりカレンダーをめくったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族の希望により、使い慣れた家具や時計などを持参してもらい、居心地よく生活ができるように工夫している。	居室には、ベッド、小タンス、エアコン等が設置されている。急激な環境の変化を防ぐために、長年本人が使っていた物や見慣れた物を持参して、本人、家族と相談しながら配置をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを付け、必要時には掴まれるように安全を図り、床は木製にして、ぬくもりのある、危険の少ないかたちをとっている。		